

# 工業地帯に於ける消費者の購買慣習

— 北海道室蘭市を中心として —

岡 本 理 一

## I 開 題

### 1 「工業地帯」形成の要因

一般に「工業」は自然のあたえるもの、或は農業、林業、牧畜業、漁業、鋳業などのいわゆる原始産業から産出された物質、或はまた工業自身の供給する物質——を加工し、変化し、また混成することによつて、新しい生産物をつくりだし、供給する一種の産業とされている。ところで、資本主義が成立する以前の手工業にあつては、その発達に適應する地域をえらぶこと、すなわち立地というようなことは格別の考慮をはらうほどの重要性をもたなかつたのであるが、かの18世紀末葉におこつた産業革命以後、いわゆる工場制工業が生れて次第に発達をとげていくにともない、それはいづこの地域でも設け得るといふようなものでなく、必要な諸条件、たとえば広大な土地、多くの労働力、豊富で廉価な原料と動力、購買力に富む消費市場——などをそなえた地域に立地をみるようになり、ここに「工業地帯」の形成ということが登場するにいたつたのである。

このように、1つの「工業地帯」が形成され、且つ、それが発達をとげていくためには、これらを可能ならしめる種々の要因がその地帯や周辺地域に存在することを必要とする。地理学者の所説によれば、一般に「工業地帯」は生産費を極小ならしめる地点に設定されるということであるが、生産費を構成する費目のうち、地域によつて相違するものは、主に輸送費と労働費であるから結局、それはこれら両者の最も小さい地点に定まるということになる。ところで、生産費を極小ならしめるということは、甚だ一般的、且つ、抽象的な言い方であるから、その実現に必要な諸項目、すなわち工業地帯形成の諸要因を

あげると次のようなものがある。

〔A〕工業地帯における要因

(1) 地形が工業の経営に適應していること

今日の工業は経営規模が次第に大きくなり、雇用する労働者の数も増加する傾向にあるが、これらは、必然、工場敷地や住宅用地にあてられる広大、且つ平坦な土地を必要とするにいたる。また、原料、資材や製品の輸送に便利で、しかも経費が低廉であるためには、工場が海岸、湖岸、河岸に接して設けられることが望まれる。さらに、工業用水や飲料水も容易に得られる地域であることも、近代工業の発達のため、必要な事柄となつている。

(2) 多くの労働力が得られること

今日の工業が経営規模の拡大にともない、量的に豊富な労働力を必要とすることはいうまでもないが、また質的にも熟練労働のほか、不熟練労働も多く求めている。したがつて、臨時工的な労働者や日雇労働者を容易に求め得る地域たとえば農家の二、三男問題で悩んでいるような地方は、工業地帯の形成にとり、よい条件をそなえているといえる。また、男子労働者のほか、多数の女子労働者が存在することも同様の要因となるものである。

(3) 交通が便利であること

今日の工業はその経営上、多量の原料、資材を必要とし、また製品の販売も多量にのぼるため、工業地帯としては、これら物財の購入、販売にとともなう輸送が円滑におこなわれ、その費用も低廉であることが望まれる。すなわち、その地帯を中心に、周辺地域との間に道路、鉄道、バスなどの交通網がよく発達して、人も物財も迅速、簡便に、しかも、低廉な料金で輸送されることを要しまた河川があつて舟運の便のあるのも望ましく、海岸に位置して良好な港湾をもつことも、今日の工業地帯を形成する上に甚だ大切な要因となるのである。

〔B〕工業地帯周辺地域における要因

(1) 原料、資材の供給があること

今日の工業は多量の原料、資材を必要とするため、これの国内産のものを使用、消費する工業にあつては、その生産地かまたは近傍、周辺の地域において発達をみることが多い。以前、工業の経営が小規模にとどまつていた頃は、主

に原料の生産地でおこなわれたものであるが、経営規模が拡大して多量の原料資材を必要とし、そのうえ、交通機関の発達によつて廉価に大量輸送が可能となるにともない、それは必ずしも原料の生産地にかぎらず、かなり離れた地域においても、他に有力な要因が存在する以上、よく発達をみるようになった。しかし、それがあまりにも遠くなることは、たとえば鉱産物、農産物、林産物、水産物などを原料として使用する場合に知られるとおり、輸送費などの点から望ましいこととなく、大体、近くの周辺地域であることを要する。なお、外国産の原料などを使用する工業にあつては、その国内供給地である輸入港所在の地域において立地をみることが多い。

### (2) 製品の市場が存在すること

今日の工業はいわゆる商品生産をおこなうものであるから、当然、その市場（販路）は確保されていなければならぬが、その範囲は生産量の増加にともない、生産地を中心として拡大されていく。したがつて、市場が狭小であつたり拡大の可能性が少いものは、工業発達の見込が皆無に等しく、工業地帯の形成も困難となつてくる。市場は製品の種類や性質によつて、純然たる消費市場のこともあれば、また原材料の供給をおこなう生産財市場のこともあるが、とくに前者の場合、工業地帯に近接して豊富な購買力をもつことが必要とされる。また市場は蒐集市場のこともあれば、分散市場のこともあるが、ともに強力な卸売商などの商業機関が存在して、製品の販路維持や拡張につとめることが望まれるのである。

### (3) 動力が豊富に供給されること

今日の工業が電力などの動力を多く必要とすることはいうまでもなく、豊富な原料、資材や労働力の供給と相俟つて、その発達を促すものである。したがつて、工業地帯の形成にとり、その周辺の地域において水力、火力の発電がおこなわれ、廉価、且つ、豊富に電力の供給をみることが、今日、不可欠の要件といえるし、また石炭、石油などの動力用物資が多く産出、供給されることも大きな要因となるものである。

以上が、大体、今日、「工業地帯」の形成上、また発達上、必要な要因の主なものである。これを本小稿に関連ある「製鉄工業」についてみると次項のとおり

りである。

## 2 製鉄工業地帯の形成要因

いうまでもなく「製鉄」とは「製銑」と「製鋼」の両者を指すのであるが、ともに製造の過程において、石炭その他の燃料を用いるか、或は電力を使うかによつて製法を異にし、同時にその立地要因にも相違を生ずる。すなわち「製銑」の場合、石炭を用いるものは高炉製銑であり、電力を使うものは電炉製銑であるし、また「製鋼」の場合、発生炉ガスその他重油、タール、ピッチ、天然ガス、混合ガス、コークスガスを燃料とするものは平炉製鋼であり、電力を使うものは電炉製鋼であり、溶銑の高熱を利用するものは転炉製鋼である——など、種々の製法がみられる。ところで、電力を使う製法は、それが廉価、且つ、豊富に供給される地域や高級鋼の製造をおこなう場合にかぎられていて、現在、その生産能力はさほど大きくない。今日にみる製法の大部分は、石炭（コークス）などを用いる高炉製鉄と発生炉ガスによる平炉製鋼であるが、これら両者はいわゆる「銑鋼一貫作業」として連続的におこなわれることが多く、別々に離れてなされることは少い。そして、製鋼工場は製銑工場の立地に従属するを常としているため、結局、製銑工場の立地要因によつて、製鉄業全般にわたる立地がきまり、その工業地帯が形成されていくこととなる。このような製法上の特色を前提としながら、その要因となるものをみると、次のとおりである。

### (1) 良質の石炭が豊富に産出されること

製鉄法の示すところによれば、銑鉄1トンを生産するのに、鉄鉱石約1.8トン、コークス約1トン、その他の副原料を必要とし、さらにコークス1トンの生産に石炭約2トンを要するといわれているが、もともと石炭は相当の重量と容積をもち、製造工程中にその重量を失つてしまうものであるから、製鉄にあつては、鉄鉱石の生産地でおこなうよりも、石炭の生産地に鉄鉱石を運こんでそれをおこなう方が、経済的に有利とされている。したがつて、今日、製鉄工業地帯の形成にあつては、その周辺地域に良質の石炭が豊富に生産されることが、甚だ大きな要因となつているのである。

### (2) 施設の完備した港湾が存在すること

製鉄業は鉄鉱石の生産地で経営されることもあるが、上述のとおり、むしろ鉄鉱石を石炭の産地に運こんで、その産地で経営されることが多く、とくにわが国のように、鉄鉱石の大半を輸入に俟ち、製鉄用の粘結炭を海外からの輸入に依存することの多いところにあつては、その地帯形成にあたり、港湾が存在して、しかもその施設の整備されていることが大きな要因となつてくる。また販売面を考慮するとき、製品の移出や輸出の作業が円滑におこなわれるため、施設の完備した港湾をもつことが、その周辺地域に鉄鋼の消費地をもつこととあわせて、甚だ重要となるのである。

### (3) 鉄鉱石が産出されること

いうまでもなく、良質にして豊富な鉄鉱石の産出される地域に製鉄業のおこる可能性の多いことは、一応、考えられる。しかし、前述したところによつて知られるとおり、今日、生産地における製鉄は、国内の石炭供給が不十分な場合に限られることが多く、いつも一般性をもつものではない。もちろん、鉄鉱石の生産地において、石炭などの燃料が周辺地域から産出され、さらに他の諸要因も存在するならば、そこに製鉄業のおこる可能性は十分に存在するであろう。

以上のほか、水が豊富であること、多くの労働力が容易に得られること、消費市場に恵まれていること——などが製鉄業の場合に必要なのは、既述一般の工業地帯形成の要因におけると同様である。

## 3 工業地帯としての室蘭市

今日、室蘭市はわが国における有数の工業都市として発展をみつつあるが、他の道内諸都市におけると同様、その経済的発展が明治以来の開拓に俟つものの大きいのはいうまでもなく、とくに最近のそれは、総合開発の進展によること甚だしい。その将来にわたる展望はさておき、簡単に今日にいたるまでの沿革をまず述べておこう。

史実の示すところによれば、室蘭が社会的重要性をもつにいたつたのは相当に古く、すなわち、今を去る 360 余年前、文禄 2 年、松前藩蠣崎氏の所領となつたが、幕府はいわゆる蝦夷地を重視しているという施策の 1 つとして、慶長年間に「絵鞆場所」を設け、商人にアイヌと交易させている。これによつて

和人の来往は頻繁になつたといわれている。明治元年箱館府に属し、同4年開拓使の所管となつたが、同33年絵鞆村ほか7カ町村を合併して「室蘭町」となし、こえて大正11年市制施行によつて「室蘭市」（当時の人口52,158人）が生まれたのである。ところで、この間、開拓のすすむにともない、交通、教育、文化行政、厚生の各方面にわたる諸施設が次々とつくられ、また経済的の発展も徐々にすすみ、とくに明治25年、北海道炭礦汽船株式会社が室蘭、岩見沢間に鉄道を敷設してからは、その港が石炭の積出港に選定され、その後、港頭の埋立荷役施設の築造などによつて、「室蘭港」としての素地を着々と築いてきたのである。そして、同40年今日の株式会社日本製鋼所室蘭製作所が設立され（同44年操業）、また同42年今日の富士製鉄株式会社室蘭製作所の前身であるところの北海道炭礦汽船株式会社の「輪西工事所」が創設されるにしたがい、港湾都市であると同時に、「工業都市」としての性格をもつようになつた。その後、同所はわが資本主義の発展にともない、数度、経営主体の変更をみ——大正6年北海道製鉄株式会社となり、昭和6年輪西製鉄株式会社となり、同9年製鉄業の合同により日本製鉄株式会社となつた。そして戦後、過度経済力集中排除法の指定により分割の結果、同25年富士製鉄株式会社輪西製鉄所、同26年同社室蘭製作所となる——次第に事業の拡張をはかり、また設備の充実、技術の向上によつて、業界に確固たる地位を築くようになつた。とくにすぐる第2次世界大戦中は、両社とも、軍需品の増産に大きな力をいたし、まったくこの地を重工業都市の観を呈せしめ、人口も13万人をかぞえるほどになつた。戦後も既存設備の更新、製造方式の改善、外国メーカーとの技術提携などによつて、新製法の導入をはかり、以て製品の品質向上につとめ、広く世界各国に販路をもつようになつてきた。いま、最近における両者規模の一斑をうかがえば、株式会社日本製鋼所（資本金25億円）室蘭製作所の工場建物66,505坪、工場敷地328,668坪、従業員数約3,200名、主要設備として塩基性及び酸性平炉、エルー式高周波電気炉、熔銑炉、水圧鍛錬機、汽鎚、圧延機、工作機械などがあり、富士製鉄株式会社（資本金130億円）室蘭製作所の工場建物91,405坪、工場敷地1,348,050坪、従業員数約8,000名、主要設備として熔銑炉、混銑炉、平炉、分塊工場、中小形工場、線材工場などがある。

なお、港湾の利用による交易もさかんとなり、戦後10余年を経た今日、その出入船舶数（昭和30年度入港船舶状況—外国船83隻、外航船98隻、内国汽船2,256隻、機帆船1,415隻、漁船5,910隻、合計9,762隻）において、また輸移出入貨物の数量（昭和30年輸移入数量1,519,842トン、同年輸移出数量5,217,788トン）において、わが国屈指の商港となつている。さらに、ここ数年の間に函館ドック株式会社（資本金5億4千万円）の室蘭製作所、富士セメント株式会社（同5億円）、日本石油株式会社（同45億円）の室蘭製槽所などが設けられ、その他多くの下請工場を含めて、室蘭市は実に一大工業地帯を形成するにいたり、もはや今日では市内にその土地を求めることが至難となつている実情である。いま、この間の事情をうかがう一資料として、昭和30年度における業種別の工場数、従業員数、生産額を示すと次のとおりである。

室蘭市の工場数従業員数生産額一覧（昭和30年度）

業 種	工場数	従業員数	生 産 額
第 1 次 金 属 工 業	3	7,726 <sup>人</sup>	19,237,580 <sup>千円</sup>
機 械 工 業	4	3,137	6,480,481
金 属 工 業	15	324	1,364,557
化学薬品及び化学製品工業	4	397	1,196,585
セメント及び土石製品工業	3	356	887,287
食 料 品 工 業	88	636	655,724
製 材 木 製 品 工 業	33	356	509,049
造 船 工 業	10	531	494,697
石油及び石炭製品工業	3	201	194,552
紙及び類似品製造工業	18	266	118,012
織 維 工 業	2	25	22,748
そ の 他 の 工 業	2	6	1,655

（注）因に本小稿に関連する若干の統計資料を示せば、昭和32年4月1日現在、室蘭市の面積75.899平方キロ、人口130,244名、人口密度1平方キロ当り1,695名、世帯数27,962、財政昭和32年度一般会計当初予算1,083,980千円、学校数 小学校17、中学校7、高等学校5、大学1、文化施設図書館1、水族館1、映画館15、厚生施設病院5、保健所1、診療所74—である。

次に、室蘭市が上述のような製鉄業を中心とする工業地帯形成にいたる要因について述べておこう。これはすでに述べた「製鉄工業地帯」の形成要因と照応するものであるが、具体的な事実についてみると下のとおりである。

#### (1) 石炭の産出について

北海道における石炭の理論的埋蔵量は、通商産業省の調査によれば、確定2,204,726千トン、推定1,287,027千トン、予想5,931,730千トン、合計9,423,483千トン——となっていて、きわめて豊富である。昭和31年度の生産高は、日本石炭協会北海道支部の調査によれば14,848,726トンで、炭種別では、原料用炭3,828,954トン(25.8%)、発生炉用炭787,508トン(5.3%)、一般用炭9,626,579トン(64.8%)、微粉炭605,685トン(4.1%)——となつている。なお、炭田別にみると、室蘭市に近い「石狩炭田」は11,476,063トンの産出高があつて全体の77.3%を占めている。

#### (2) 港湾施設について

室蘭港は地形的に良港であるが、荷役などに要する諸施設もかなり整備されている。

まず埠頭としては「本輪西富士鉄」、「日鋼」、「鉄道」、「北荷」、「中央」——などがあつて、それぞれ起重機、コンベヤー、ローダー、リフトなどの荷役機械をそなえ、鉱石、鋼材、石炭、土石、木材、雑貨などの貨物を取扱っている。

また繫船岸壁は「本輪西」など20カ所をかぞえ、その中には「富士鉄」、「日鋼」、「鉄道」、「北荷」のように1万トン級の船舶が容易に繫船されるものもある。

さらに倉庫及び上屋は「本輪西埠頭」(9棟、経営者栗林商会)、「中央埠頭」(4棟、経営者室蘭市)、「中央埠頭」(1棟、経営者日本通運株式会社)、「海岸町公共物揚場」(4棟、経営者栗林商会)、「海岸町公共物揚場」(3棟、経営者日本通運株式会社)、「海岸町公共物揚場」(3棟、経営者檜崎産業海運株式会社)——にそれぞれあつて、貨物保管などに用いられている。

さらにまた、油槽は日本石油株式会社の11基をはじめ10社のものがあつて、重油、ガソリン、機械油、灯油などを貯蔵している。

### (3) 鉄鉱石の産出について

北海道の各地には鉄鉱石（主に褐鉄鉱）の産出がみられ、昭和31年度の生産高は338,500トンで、全部、富士製鉄株式会社室蘭製作所で使用されている。またその海辺地帯からは砂鉄の産出も少なくなく、昭和31年度の生産高は514,000トンで全国生産高の60%を占めている。室蘭市に近い噴火湾の海岸一帯から亀田半島にかけて砂鉄が広く分布していることは、その製鉄業に甚だ好適な立地要因となつている。

## 4 労働者生活の安定と配給組織

一般に工業地帯形成の要因としてあげられるものは、大体、上述のとおりであるが、さらに最近における社会的、経済的諸情勢にかんがみると、その都市の住民、とくに多数の「労働者の生活安定」をはかることが重視されねばならぬ。それは、これら市民の生活安定が労働意欲の高揚や生産能率の向上に大きく影響し、ひいては生産力を向上させる上にあずかつて力があるからである。すでに工業都市である以上、多数の工場労働者や種々の労務に従事する臨時的、日雇的な労働者が存在するのはいうまでもなく、また港湾荷役などに従事する労働者も、老若男女をとわず、相当の数にのぼっている。概してこれらの労働者は、工場の近辺にある社宅や密集住宅に居住し、いわゆる工場街や細民街をつくつていたのであるが、その日常生活は、近時にみる労働組合運動の進展により、漸次、改善されつつあるとはいえ、なお、低賃金、長時間労働などの低い労働条件下にあるものも少なからず、失業の不安にさらされているものもかなり多い実情にある。しかし、このような状態が、究極において工業生産の向上に資するものでないことはいうまでもなく、また労働者の人間性尊重という見地からも一考を要するものがあるゆえ、この際、速かに必要な方策がとられねばならぬのである。

ところで、その安定方策として、種々のものがあげられること、周知のとおりであるが、その有力なもの1つに、労働者の日常生活に必要な物資を廉価に供給し、この面から実質賃金の確保をはかるということのあるのは、すでに認識されていることながら、この際、強く推進せねばならぬ事柄である。そして、これが、今日、工業地帯形成の1つの要因となつていることも新たに留意

を要する事柄といわねばならぬ。それでは、生活必需品の廉価供給はどのような方法によつて可能となるか。これは、結局、生活必需品の配給組織を合理化して配給費の軽減をはかり、たとえ商業利潤は低くても、経営の可能な配給機関を実現せしめるよりほかに道はないであろう。その配給機関として、従来の単独小売商をとるか、或は会社資本の経営にかかる「購買会」の形態によるか或はまた労働者自身の出資をもつて組織する「生活協同組合」がよいかは、それぞれの地域のもつ歴史的、地理的事情や、社会経済的情况によつてきまる問題であろう。いずれにせよ、労働者生活の安定のため、良質にして廉価な商品を配給し得る機能をもつたものが望ましいのはいうまでもなく、したがつて、既存の配給機関や配給組織をそのような機能を果し得るものに変えることや、ときにはそれに適応する配給機関の設置も考えられるのである。

×            ×            ×            ×

この小稿は、予てから筆者の着手している北海道の「地域商業」研究の1部として、本道の代表的な工業地帯とせられる「室蘭市」において、上記のような要因や事項を考慮にいれつつ、昭和32年8月以来、数カ月にわたり、生活必需品を中心に、消費者の商品購入先を調査した結果を記述せるものである。幸い、北海道商工部工業課において、昭和32年度の事業として「胆振地区工業地帯調査」を実施するに際し、筆者もその委員として「商品流通」の分野を担当し、調査することとなつたので、平素の研究とあわせて、ここに工業地帯における消費調査を実施し、室蘭市における購買慣習の概要を把握した次第である。因にこの「胆振地区工業地帯調査」は、室蘭市および虻田、幌別、豊浦の各町を地方経済圏の1単位として、これら地区内における工業の発展、経過の実態を究明するとともに、現在、発展を助長し、或は阻害している諸要因を、主に技術的立場から調査、検討せんとするものである。そして、とくに立地条件を含めて昭和28年から現在にいたるまでの状態を一般経済の推移と関連を保ちつつ詳細に解明し、以て本地区工業の振興をはかる基礎資料として役立たしめることを意図している。この「消費調査」の実施によつて、工業地帯の特異性を示す多くの資料が得られ、今後の合理的な配給組織の確立に資するものの

多かつたのは甚だ幸いなことであつた。

## Ⅱ 消費者の商品購入状況

### 1 消費調査の方法

まず調査方法として、一定地域の消費者に質問書を配付し事実についての記入を求める「質問書式法」をとつた。これは、従来、他の地域の消費調査にあたり、とつてきたのと同様のものである。その調査書の様式は下掲（第1表）のとおりであり、また質問事項は住所、世帯主の職業、家族の構成、商品別の購入場所と購入者、物価高について、札幌市への商品購買動機——となつていて、各項目の細部は調査表のとおりである。

次に調査の対象として、北海道立室蘭栄高等学校（前身北海道庁立室蘭中学校）並に北海道立室蘭清水丘高等学校（前身北海道庁立室蘭高等女学校）の生徒の家庭をとつた。これら両高等学校はともに創立以来の歴史が古く、在校生は、大体市内を2つに分けて、それぞれの方面で、各種の職業をもつ家庭からかなり平均的に通学してきているので、これに調査表を配付し、所定事項の記入を求めた次第である。そして、調査表は両校の第1学年の生徒に配付したが、その枚数前者に230枚、後者に350枚、回収数前者172枚（75%）、後者301枚（86%）であつた。

さらに、消費対象となつた消費者の職業別一覧表をつくと第2表のとおりである。これによると「会社員」（41.9%）という記入が最も多く、これは主に日本製鋼所や富士製鉄株式会社への勤務と思われる。次いで「公務員」（15.8%）、「商店主」（14.4%）となつている。上記以外の職業のものが少ないのは第2表で知られるとおりである。

第1表

北海道消費調査

胆振地区工業地帯調査委員会  
小樽商科大学商業学研究室

(工業地帯の部)

昭和32年9月

記入者の皆さんへ——  
この調査は、室蘭市の商業を振興し、併せて市民の生活を向上していくため、必要な資料を得る目的で、実施するものです。面倒なことをお尋ねして恐縮ですが、趣旨を諒承の上、御協力下さるようお願い致します。

整理番号	あなたの住所	室蘭市	あなたの家の職業	公務員、労務者、 工員、教員、会社員、 商店主、工場主、農業、その他
あなたの家の家族 (該当のものを○印でかこんで下さい)				
父	ありなし	兄弟	人	その他
母	ありなし	姉妹	人	人

下記の各種の商店について、主にお宅のどなたが、主にどこでお買求めになりますか。最近の分について記入して下さい。但し、買求めた場所は次の番号をもつて記入下さるよう願います。

買求めた場所	番号	買求めた場所	番号
市内の小売店のとき	1	購買会のとき	6
市内の百貨店のとき	2	他の町の商店のとき	7
札幌市の小売店のとき	3	内地都市の商店のとき	8
札幌市の百貨店のとき	4	通信販売のとき	9
生活協同組合のとき	5	その他のとき	10

品名	買求めた場所	買求めた人	品名	買求めた場所	買求めた人
服地(生地)			米		
背広服			味噌		
婦人服			醬油		
子供服			酒		
呉服・反物			砂糖		
シャツ等下着			野菜		
毛糸			魚類		
セーター			果物		
帽子			菓子		
ゴム靴			文具		
皮靴			書籍		
家具類			雑誌		
金物			スポーツ用品		
時計			玩具		
ミシン			理髪		
自転車			クリーニング		
ラジオ等電気器具					

下の問いに答えて下さい。(ⅠとⅢは該当のものを○印でかこんで下さい)

<p>(問)室蘭市の物価は一般に高いと思いますか</p> <p>Ⅰ(答)高い (札幌市等にくらべて幾%位ですか) % 高くない</p>	<p>(問)札幌市へ出掛けて商品を買う理由は何ですか</p> <p>Ⅲ(答)値段が安い 品物が豊富である 品質がよい 信用できる スタイルがよい サービスがよい</p>
<p>(問)室蘭市内の商店で販売する商品のうち、内地の都市や札幌市にくらべて、とくに高いと思うものにはどのようなものがありますか、その品名をあげて下さい。</p> <p>Ⅱ(答)品名</p>	<p>(問)室蘭市でとくに安いと思われる商品がありますか、あるとすれば商品名と販売機関名を記して下さい</p> <p>Ⅲ(答)品名 販売機関</p>

第2表 消費者の職業別一覽

職業別	人 数	学 校 別 人 数		合 計
		栄高等学校	清水丘高等学校	
公 務 員	12 (7.0)	63 (21.0)	75 (15.8)	
労 務 者	6 (3.5)	4 (1.3)	10 (2.1)	
工 員	17 (9.9)	6 (2.0)	23 (4.9)	
教 員	8 (4.7)	13 (4.3)	21 (4.4)	
会 社 員	92 (53.5)	106 (35.2)	198 (41.9)	
商 店 主	20 (11.6)	48 (16.0)	68 (14.4)	
工 場 主	2 (1.2)	3 (1.0)	5 (1.1)	
農 業	2 (1.2)	1 (0.3)	3 (0.6)	
そ の 他	10 (5.7)	44 (14.6)	54 (11.4)	
無 記 入	3 (1.7)	13 (4.3)	16 (3.4)	
合 計	172 (100.0)	301 (100.0)	473 (100.0)	

## 2 室蘭市に於ける商品購入状況

「商品別の購入先」と「商品別の購入者」をそれぞれ1表にまとめると第3表、第4表のとおりである。以下、商品毎に説明していこう。

## (1) 服 地 (生地)

記入数448のうち「市内の小売店」(215)からの購入が最も多く、次いで「市内の百貨店」(152)からの購入が多くみられる。ただし、室蘭市には百貨店として株式会社丸井今井の支店(従業員100名)が1カ所しかないのであるから、この数はかなりの顧客を吸収していることになる。また、地元の「購買会」(25)や「生活協同組合」(18)からの購入は、後述の食料品などにくらべると少いが、元来、これらの上質、高価なものは買回品の性質をもち、ここではあまり高価でないものが取扱われているため、このような結果がみられるのである。したがって、それは、決して購買会や生活協同組合の売行不振を示すというようなものではない。なお、「札幌市の百貨店」(12)、「札幌市の小売店」(10)も少々みられ、若干、買回品的性格のものもあることを示している。

第3表

北海道消費調査

商品別	購入先別	市内の小売店	市内の百貨店	札幌の小売店	札幌の百貨店
服	地(生地)	215	152	10	12
背	広	154	74	6	13
婦	人	152	108	8	14
子	供	152	106	6	8
呉	服・反	224	113	5	16
シ	ヤ ツ 等 下	198	160	4	8
毛		165	74	1	5
セ	一 タ	157	92	1	9
帽		199	66	3	3
ゴ	ム	226	22	1	3
皮		249	34	11	5
家	具	168	75	5	3
金		251	22	2	1
時		204	8	9	8
ミ	シ	72	20	3	4
自	転	86	3	2	0
ラ	シ オ 等 電 気 器	187	27	5	4
米		313	2	0	0
味		230	3	0	0
醬		232	3	0	0
酒		259	7	0	0
砂		220	18	0	0
野		372	4	1	0
魚		387	3	0	0
果		396	3	0	0
菓		339	28	1	1
文	房	375	38	2	0
書		344	10	4	2
雜		416	13	1	1
ス	ポ 一 ツ 用	246	35	3	7
玩		117	76	1	3
理		217	3	1	0
ク	リ 一 ニ シ	283	2	1	0

## 商品別の購入先一覧（室蘭市）

（昭和32年9月現在）

小樽商科大学商業学研究室

生活協 同組合	購買会	他の町の 商店	内地都市 の商店	通 信 販 売	そ の 他	計
18	25	2	4	1	9	448
8	21	9	10	0	17	312
7	11	5	8	0	12	325
21	25	3	4	0	9	334
17	23	11	6	7	4	426
48	59	3	1	0	5	486
28	55	5	0	0	11	344
6	22	6	2	1	9	305
13	30	5	2	0	3	324
31	33	8	3	1	3	331
9	15	8	8	2	5	346
8	25	9	6	1	7	307
21	31	4	0	1	5	338
6	5	12	15	2	12	281
4	13	10	3	2	9	140
11	20	5	5	5	10	147
11	21	7	6	4	20	292
60	74	3	0	1	11	464
101	115	4	1	2	7	463
103	115	4	1	1	7	466
37	53	7	1	0	4	368
94	120	2	0	0	9	463
41	30	9	1	1	19	478
38	32	8	1	1	5	475
30	31	10	2	1	9	482
61	117	5	1	1	8	562
25	34	9	0	0	4	487
2	4	9	0	8	5	388
2	5	9	1	6	7	461
6	11	6	2	1	3	320
0	3	3	3	1	1	208
34	29	10	0	0	87	381
4	6	13	1	0	66	376

第4表 北海道消費調査—商品別の購入者 (室蘭市)

昭和32年10月

小樽商科大学商業学研究室

購入者別 商品別	父	母	兄	弟	姉	妹	自分	その他	合計
服地(生地)	34	318	1	0	56	7	14	6	436
背広服	98	121	37	0	4	0	1	4	365
婦人服	13	231	0	0	61	0	4	6	315
子供服	9	266	0	5	17	9	4	5	315
呉服・反物	15	354	0	0	16	2	2	7	396
シャツ等下着	10	392	7	2	20	3	22	11	467
毛糸	5	266	0	0	21	1	5	6	304
セーター	7	221	2	1	45	5	11	7	299
帽子	29	189	12	15	23	1	45	14	328
ゴム靴	40	204	9	14	5	10	16	9	307
皮靴	113	138	35	0	33	4	30	8	361
家具類	103	212	5	0	7	0	2	5	334
金物	68	237	4	0	7	0	2	13	331
時計	145	89	22	0	13	1	15	10	295
ミシン	42	87	2	0	13	0	0	4	148
自転車	96	24	12	3	0	0	8	3	146
ラジオ等電気器具	162	77	28	0	8	0	16	8	299
米	7	415	2	1	14	4	5	19	467
味噌	6	400	3	1	14	9	10	21	464
醤油	8	407	3	0	14	9	9	21	471
酒	41	275	2	1	9	8	7	16	359
砂糖	5	377	2	0	16	11	7	19	437
野菜	5	392	0	1	20	9	12	20	459
魚類	3	403	0	0	18	4	8	20	456
果物	7	402	1	1	18	4	15	15	463
菓菓子	14	395	2	5	18	5	24	15	478
文房具	20	150	33	58	32	48	189	32	562
書籍	74	94	52	17	37	61	128	29	492
雑誌	68	129	50	44	47	36	128	39	541
スポーツ用品	56	72	40	35	13	10	93	26	345
玩具	28	118	7	21	8	15	10	9	216
理髪	157	60	37	26	14	20	50	63	427
クリーニング	73	225	28	7	18	0	24	30	405

次に、これを購入者別にみると、「母」（318）が最も多く購入しているのは商品の用途からみて当然のことであろうが、また「姉」（56）、「父」（34）による購入もかなりみられる。

### (2) 背 広 服

記入数 312 のうち、「町内の小売店」（154）からの購入が最も多く、次いで「市内の百貨店」（74）からの購入となつている。地元の「購買会」（21）や「生活協同組合」（8）から少々購入されているが、これはあまり高価品ではない。札幌市の百貨店や小売店からの購入が少々みられるのは、市民が出張したついでに買求めるものなどであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」（121）の購入が「父」（98）のそれよりも多いのは留意を要しよう。「兄」（37）の購入が少なからずみられるのは、用途上からみて当然のことであろう。

### (3) 婦 人 服

記入数 325 のうち、「市内の小売店」（152）と「市内の百貨店」（106）からの購入が最も多く、百貨店からの購入が非常に多いことは、道内の他都市でもみられる共通的な現象であるとはいへ、注目に値しよう。これは、買回品としての性質が甚だ強いこと、レディー・メイドやイージー・オーダーなどの商品を数多く取扱つていること——によつて、婦人の多数が百貨店に足を向けるからである。このことは、「札幌市の百貨店」（14）からの購入も少々みられることによつても、その間の事情がよく察せられる。なお、ここでも「購買会」（11）や「生活協同組合」（7）からの購入は少い。

次に、これを購入者別にみると、「母」（231）の購入が圧倒的に多く、「姉」（61）が次いでいるのは、商品の用途上からみて当然のことであろう。

### (4) 子 供 服

記入数 334 のうち、「市内の小売店」（152）と「市内の百貨店」（106）からの購入が多い。しかし、地元の「購買会」（25）と「生活協同組合」（21）からの購入もかなりみられるのは、近時、これが常用化せられてまつたくの必需品となつたことによると思われる。反対に、札幌市の百貨店や小売店からの購入は甚だ少いのがみられる。

次に、これを購入者別にみると、「母」(266)の購入が圧倒的に多いのは、当然のことであろう。他は「姉」(17)、「父」(9)、「妹」(9)の購入となつている。

#### (5) 呉服・反物

記入数426のうち、「市内の小売店」(224)からの購入が最も多く、次いで「市内の百貨店」(113)からの購入となつている。市内の小売店からの購入が、断然、多いのは、従来からの顧客関係、品質などによるものと思われ、このことは、有名品を取扱う「札幌市の百貨店」(16)から少々の購入があることによつても、よく察知される。しかし、「購買会」(23)、「生活協同組合」(17)からの購入が少なからずあるのは留意を要しよう。

次に、これを購入者別にみると、「母」(354)の購入が圧倒的に多いのは当然のことであろう。

#### (6) シャツ等下着

記入数486のうち、「市内の小売店」(198)と「市内の百貨店」(160)からの購入が最も多い。百貨店からの購入が多いのは、売場における品種が多くて選択の自由であることや、値段も正札で買い易いことによつている。また「購買会」(59)と「生活協同組合」(48)からの購入がかなりの数にのぼるのは、これらがどこの家庭でも需要するものであり、且つ、値段も高くなく、その取扱いに適しているからである。これは、反面、札幌市の商店からの購入が少いことでもよく証されている。

次に、これを購入者別にみると、「母」(392)の購入が非常に多いのは当然のことであろう。また「姉」(20)のほか、「自分」(22)、「父」(10)、「兄」(7)、「弟」(2)——というように、男子の購入が少々あるのは、購入の容易なためであろう。

#### (7) 毛糸

記入数344のうち、「市内の小売店」(165)からの購入者が甚だ多いが、また「市内の百貨店」(74)、「購買会」(55)、「生活協同組合」(28)などからの購入もかなりの数にのぼつている。これは有名品が出回り、値段も、大体、きまつていることによるのであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」（266）の購入者が圧倒的に多く、「姉」（21）、「自分」（女生徒,5）の購入が少々あるのは、毛糸編物をこれらの人々がおこなっているためと思われる。

#### (8) セーター

記入数 305 のうち、「市内の小売店」（157）からの購入が最も多く、次に「市内の百貨店」（92）からの購入となつている。「購買会」（22）からの購入が少々みられるのは、最近、これらのものを多く取扱うようになってきたからにほかならぬ。

次に、これを購入者別にみると、「母」（221）の購入が最も多いのは当然のことながら、「姉」（45）の購入がかなりの数にのぼるのや、「自分」（11）の購入が少々みられるのは、いずれも購入者本人の使用に供するものであろう。

#### (9) 帽子

記入数 324 のうち、「市内の小売店」（199）からの購入が最も多い。次いで「市内の百貨店」（66）、「購買会」（30）、「生活協同組合」（13）による購入の順となつている。帽子の中でも紳士帽や婦人帽は市内の専門店や百貨店で購入され、学生帽、幼児帽、スキー帽などは、購買会や生活協同組合で購入されているものと思われる。

次に、これを購入者別にみると、「母」（189）の購入が最も多いが、また購入者自身の着用を示すかのように、「自分」（45）、「父」（29）、「姉」（23）、「弟」（15）、「兄」（12）——の購入もそれぞれみられる。

#### (10) ゴム靴

記入数 331 のうち、「市内の小売店」（226）からの購入が圧倒的に多く、次いで「購買会」（33）、「生活協同組合」（31）からの購入がみられ、「市内の百貨店」（22）からの購入はさほど多くない。これは、道内における四、五の有名メーカーのものが多く出回り、どこで購入しても値段にあまり差がないためである。

次に、これを購入者別にみると、「母」（204）の購入が最も多いが、また「父」（40）、「自分」（16）、「弟」（14）、「妹」（10）、「兄」（9）、「姉」（5）——というように、家族の各人が買求めているのは、その最寄品性によ

るものといえよう。

### (11) 皮 靴

記入数 346 のうち、「町内の小売店」(249)からの購入が非常に多い。そして「市内の百貨店」(34)からの購入は多くない。これは、依然、「靴は靴屋から」——という人々の考え方にもとづくものであろう。「購買会」(15)や「生活協同組合」(9)からの購入が多くないのは当然としても、「札幌市の小売店」(11)からの購入が少々みられるのは、有名な専門店から買求めているものと察せられ、注目を要する。

次に、これを購入者別にみると、「母」(138)と「父」(113)の購入が最も多い。母は自分の使用するもののほか、子供らのものを購入しているのであろう。また「兄」(35)、「自分」(30)などによる購入は、自身の使用するものを買求めているのである。

### (12) 家具類

記入数 307 のうち、「市内の小売店」(168)からの購入が多い。しかし、「市内の百貨店」(75)、「購買会」(25)などからの購入もかなりの数にのぼっている。「他の町の商店」(9)、「生活協同組合」(8)からの購入も少々みられる。購買会や生活協同組合は市価よりも少し低廉に販売しているので、売行はなかなかよいということである。

次に、これを購入者別にみると、「母」(212)が最も多いのは、その品定めを主婦がなすのを適当とされているためであろう。しかし、「父」(103)の購入もかなりの数にのぼるのは、値段の高いものが少なからず、また家庭に長く備え付けるものであることにもよると察せられる。

### (13) 金 物

記入数 338 のうち、「市内の小売店」(251)からの購入が最も多く、「市内の百貨店」(22)からの購入は多くない。そして、「購買会」(31)、「生活協同組合」(21)からの購入はかなりの数になつている。これらは最寄品としての性質上、当然のことであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」(227)による購入が最も多く、「父」(68)によるそれはあまり多くない。

## (14) 時 計

記入数 281 のうち、「市内の小売店」(204) から圧倒的に多く購入されている。「市内の百貨店」(8)、「生活協同組合」(6)、「購買会」(5)などからの購入は少い。他の商品と異り、「内地の商店」(15)からの購入が少々あるのは注目を要するし、また「札幌市の小売店」(9)や「札幌市の百貨店」(8)からの購入も少々みられるのは、買回品として求められ、その中にはかなり高級品も含まれているものと察せられる。

次に、これを購入者別にみると、「父」(145)による購入が最も多く、次いで「母」(89)の購入となつている。また「兄」(22)、「自分」(15)、「姉」(13)による購入も少なからずみられるのは、どれも本人の使用するものを買求めているのであろう。

## (15) ミ シ ン

記入数 140 のうち、「市内の小売店」(72)からの購入が多い。次いで「市内の百貨店」(20)、「購買会」(13)、「他の町の商店」(10)からの購入となつている。無記入者の多いのは、以前に購入してしまつて、最近それを買求めているためによるのであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」(87)の購入が多いが、また「父」(42)の購入もかなりの数にのぼつている。「姉」(13)の購入が少々あるのは、その用途に照して当然のことであらう。

## (16) 自 転 車

記入数 147 のうち、「市内の小売店」(86)からの購入が最も多い。しかし、「購買会」(20)や「生活協同組合」(11)からの購入もかなりあるのは留意を要する。また「他の町の商店」(5)、「通信販売」(5)による購入が少々あるのも無視できないであらう。「市内の百貨店」(3)からの購入が少いのは子供用の自転車以外は取扱つていないからである。

次に、これを購入者別にみると、「父」(96)の購入が多いのは当然であらうが、「母」(24)のそれが少々あるのは、一寸、奇妙に感ぜられる。「兄」(12)「自分」(8)の購入が少々あるのは、それぞれ本人の使用に供するものであろう。

## (17) ラジオ等電気器具

記入数 292 のうち、「市内の小売店」(187)からの購入が最も多く、「市内の百貨店」(27)からの購入はあまり多くない。しかし、「購買会」(21)と「生活協同組合」(11)からの購入が少なからずみられるのは、留意を要する。これは有名なメーカー品が格安に販売されているためである。「その他」(20)による購入が意外に多いのは、小売店などからの正常ルートによるものでないものの状態を示しているといえる。

次に、これを購入者別にみると、「父」(162)の購入が最も多いのは当然のことであり、また「兄」(28)、「自分」(16)の少々みられるのも奇異ではないとしても、「母」(77)のそれがかなりの数にのぼるのは、その多くが家庭に備付けるものであるためによるのであろう。

## (18) 米

記入数 464 のうち、「市内の小売店」(313)からの購入が最も多い。また「購買会」(74)と「生活協同組合」(60)からの購入も多いが、これは、両者ともに米穀販売の登録店舗となつているからである。大部分の住民が、地元の商店その他で購入しているのは、主食の性質上、当然のことであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」(415)の購入が圧倒的に多いのは当然のことであり、また「姉」(14)、「自分」(5)の購入が少々みられるのはその代りをつとめているものと思われる。

## (19) 味噌

記入数 463 のうち、「市内の小売店」(230)からの購入が最も多いが、また「購買会」(115)と「生活協同組合」(101)からの購入もなかなか多い。要するに、勤務先の関係で、購買会や生活協同組合で購入できるものはそれにより、然らざるものは一般の小売店から購入しているのである。

次に、これを購入者別にみると、「母」(400)の購入が圧倒的に多いのは当然のことであり、それ以外では「姉」(14)、「自分」(10)、「妹」(9)などによる購入が少々みられる。

## (20) 醤油

記入数 466 のうち、「市内の小売店」(232)からの購入が最も多く、また

「購買会」（115）と「生活協同組合」（103）からの購入も相当に多いのは、前記、味噌の場合におけると同様である。

次に、これを購入者別にみると、「母」（407）による購入が、断然、多いこと、また「姉」（14）、「自分」（9）、「妹」（9）などの購入が少々あるのも前記、味噌の場合と同様である。

#### (21) 酒

記入数 368 のうち、「市内の小売店」（259）からの購入が最も多い。「購買会」（53）と「生活協同組合」（37）からの購入もかなりみられるが、上記の味噌、醤油ほど多くない。これは、その必需性が味噌、醤油のように大きくないことによるのであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」（275）による購入が最も多いが、また「父」（41）の購入もかなりみられるのは、自からの飲用に供するためによるのであろう。また「姉」（9）、「妹」（8）、「自分」（7）の購入が少々みられるのは、母の代りをつとめているものと察せられる。

#### (22) 砂 糖

記入数 463 のうち、「市内の小売店」（220）からの購入が最も多い。しかしこれも勤務先の関係で、「購買会」（120）と「生活協同組合」（94）からの購入も相当の数にのぼっている。市内の小売店の売行減少が購買会や生活協同組合の利用増加によつておこるといふ 1 例がここにみられる。「市内の百貨店」（18）からの購入が少々あるが、この中には贈答品用のものも少なくないであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」（377）の購入が最も多いのは当然のことであろうが、また「姉」（16）、「妹」（11）、「自分」（7）などの購入が少々みられるのは、母の仕事を代つて手伝えるものであろう。

#### (23) 野 菜

記入数 478 のうち、「市内の小売店」（372）からの購入が最も多い。しかし「生活協同組合」（41）や「購買会」（30）でも取扱つているため、それらの利用者もかなりみられる。

次に、これを購入者別にみると、「母」（392）の購入が圧倒的に多いのは当

然のことであろう。またその代りや手伝いとして「姉」(20)、「自分」(12)「妹」(9)による購入も少々みられる。

#### (24) 魚 類

記入数 475 のうち、「市内の小売店」(387)からの購入が最も多い。前記の野菜と同様、「生活協同組合」(38)や「購買会」(32)でも取扱つているためこれらからの購入もかなりみられる。

次に、これを購入者別にみると、「母」(403)の購入が圧倒的に多いが、前記、野菜と同様、「姉」(18)、「自分」(8)、「妹」(4)などの購入も少々みられる。

#### (25) 果 物

記入数 482 のうち、「市内の小売店」(396)からの購入が最も多い。しかし「生活協同組合」(30)や「購買会」(31)からの購入もかなりみられるのは留意を要する。

次に、これを購入者別にみると、「母」(402)による購入が圧倒的に多いのは当然であろうが、また「姉」(18)、「自分」(15)、「父」(7)などの購入も少々みられる。

#### (26) 菓 子

記入数 562 のうち、「市内の小売店」(339)からの購入が最も多い。しかし「購買会」(117)からの購入も相当の数にのぼつているのは、「生活協同組合」(61)の利用もかなりあるのと共に、注目を要しよう。なお、「市内の百貨店」(28)からの購入も少々みられるが、格別に論議をするほどのものではない。

次に、これを購入者別にみると、「母」(395)による購入は甚だ多いが、また「自分」(24)、「姉」(18)、「妹」(5)などが少なからず購入しているのは、その消費に照して当然のことと考えられ、「父」(14)の購入も少々みられる。

#### (27) 文 房 具

記入数 487 のうち、「市内の小売店」(375)からの購入が最も多い。しかし「市内の百貨店」(38)からの購入がかなりみられるのは、それが買い易いた

めや、他商品の買物に行つたとき、ついでに買うものもあるためと察せられる。「購買会」（34）や「生活協同組合」（25）でも取扱つているのでかなりの利用がみられる。

次に、これを購入者別にみると、「自分」（189）の購入が最も多いのは、生徒自身が使用するものであるから当然とされる。しかし、「母」（150）による購入も多く、また「弟」（58）、「妹」（48）、「兄」（33）、「姉」（32）、「父」（20）——というように、家族の皆が多少とも購入しているのがみられる。

#### (28) 書籍

記入数 388 のうち、「市内の小売店」（344）からの購入が圧倒的に多く、それ以外からの購入はいたつて少い。すなわち、「市内の百貨店」（10）、「他の町の商店」（9）からの購入が少々あるのと、「通信販売」（8）によるものが少しある位のものである。

次に、これを購入者別にみると、「自分」（128）の購入が多いのは、生徒自身の参考書などを買求めているためで、当然のこととせられる。しかし「母」（94）の購入が「父」（74）のそれと共に多いのは留意を要する。また「妹」（61）、「兄」（52）、「姉」（37）、「弟」（17）などの購入が相当にあるのは、いずれも購入者自身の読書に供するものであろう。

#### (29) 雑誌

記入数 461 のうち、「市内の小売店」（416）からの購入が、その大部分といつてよい位多い。他は「市内の百貨店」（13）と「他の町の商店」（9）からの購入が少しある位で、「通信販売」（6）によるものが少しあるのは、市内の書店で求め難いものであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」（129）と「自分」（128）による購入が大部分を占めているが、また「父」（68）、「兄」（50）、「姉」（47）、「弟」（44）、「妹」（36）——というように、家族の全員が、多少とも、購入者となつているのは、それぞれの読むものを買求めているとみてよいであろう。

#### (30) スポーツ用品

記入数 320 のうち、「市内の小売店」（246）からの購入が最も多い。しかし「市内の百貨店」（35）からの購入もかなりみられ、地元の「購買会」（11）

と「生活協同組合」(6)も少し利用されている。また「札幌市の百貨店」(7)と「札幌市の小売店」(3)から少々購入されているのは、地元の商店で求め難いものではないかと思われる。

次に、これを購入者別にみると、「自分」(93)で購入しているのが最も多いが、また「母」(72)、「父」(56)、「兄」(40)、「弟」(35)、「姉」(13)、「妹」(10)——というように、家族の各人に購入されている。

### (31) 玩 具

記入数 208 のうち、「市内の小売店」(117)からの購入が最も多いが、また「市内の百貨店」(76)からの購入も相当な数に達している。これら両者で大部分を取扱つてみるとみてもよいであろう。

次に、これを購入者別にみると、「母」(118)の購入が非常に多いのは、それが子供用のものであるため、当然のことであろうが、また「父」(28)のほか、「弟」(21)、「妹」(15)のような年少者がかなり購入しているのは留意を要する。

### (32) 理 髪

記入数 381 のうち、「市内の理髪店」(217)を利用するものが最も多いが、また「生活協同組合」(34)や「購買会」(29)の理髪所を利用するものもかなりの数にのぼっている。生活協同組合や購買会の理髪所は低廉な料金で散髪などをおこなつていたので、関係会社の従業員や子弟などは、多くそこを利用しているようである。なお、「その他」(87)の利用がかなりの数にのぼっているのは、自宅で散髪したりしているものなどと察せられる。

次に、これを利用者別にみると、「父」(157)の利用が最も多いが、また「母」(60)、「自分」(50)、「兄」(37)、「弟」(26)、「妹」(20)、「姉」(14)——というように、当然のことながら、男子の利用の多いことを示している。

### (33) クリーニング

記入数 376 のうち、「市内の店舗」(283)の利用が最も多く、「無記入」(101)の相当に多いことや「その他」(66)のかなりあることを思うと、それが大部分を占めてみるとみてよい。

次に、これを利用者別にみると、「母」(225)の利用が最も多いのは当然のことであろうが、「父」(73)もそれに次いで多く、また「兄」(28)、「自分」(24)、「姉」(18)などの利用もかなりみられる。

### 3 要 約

以上、室蘭市における衣料品関係、食料品関係、家庭用品関係、サービス業関係など、33品目につき、それらの購入先と購入者を調査した結果を略述した。これによつてみると、全体を通じて、購入先として最も多くえらばれているのは「市内の小売店」であるが、しかし、1部の食料品については「購買会」や「生活協同組合」からの購入も甚だ多くみられ、労働者の多い「工業都市」の特色の1つを示している。また「札幌市の小売店」や「札幌市の百貨店」からの購入は、買回品的な性質をもつ1部衣料品に、少々、みられる程度で、多いというほどのものではない。いま、市内の小売店、百貨店、生活協同組合、購買会並びに他の都市、地方の商店において、主にどのような商品が購入されているかをみると下記のとおりである。

(1) 「市内の小売店」で非常に多く購入(利用)されているもの

ゴム靴、皮靴、家具類、金物、時計、自転車、ラジオ等電気器具、米、酒、野菜、魚類、果物、文房具、書籍、雑誌、スポーツ用品、理髪、クリーニング、

(2) 「市内の小売店」で比較的多く購入されているもの

服地、背広服、婦人服、子供服、呉服・反物、シャツ等下着、毛糸、帽子、ミシン、味噌、醤油、砂糖

(3) 「市内の百貨店」で相当多く購入されているもの

服地、背広服、婦人服、子供服、呉服・反物、シャツ等下着、毛糸、セーター、帽子、皮靴、家具類、文房具、スポーツ用品、玩具

(4) 「札幌市の小売店」で少いながら購入されて目立つもの

服地、婦人服、皮靴、時計

(5) 「札幌市の百貨店」で少いながら購入されて目立つもの

服地、背広服、婦人服、呉服・反物、セーター、時計、スポーツ用品

(6) 「生活協同組合」で相当多く購入(利用)されているもの

シャツ等下着、ゴム靴、金物、米、味噌、醤油、酒、砂糖、野菜、魚類、果

物，菓子，理髪

(7) 「購買会」で相当多く購入（利用）されているもの

服地，シャツ等下着，毛糸，ゴム靴，家具類，金物，米，味噌，醤油，酒，砂糖，菓子，文房具，理髪

(8) 「他の町の商店」で購入（利用）されてやや目立つもの

呉服・反物，家具類，時計，ミシン，野菜，果物，文房具，書籍，雑誌，理髪，クリーニング

(9) 「内地の商店」で購入されてやや目立つもの

背広服，婦人服，皮靴，家具類，時計

(10) 「通信販売」の利用されているもの

呉服・反物，自転車，ラジオ等電気器具，書籍，雑誌

これを通観するとき，室蘭市では，衣料品関係の商品については「市内の小売店」と「市内の百貨店」の両者で大部分購入され，また食料品関係の商品については「市内の小売店」「購買会」「生活協同組合」の3者で購入され，さらに家庭用品，文化用品については「市内の小売店」で主に購入されていることが知られる。そして，札幌市の百貨店などで購入されているものは，漸次増加の傾向にあるらしいが，現在，さほど多くない。要するに「工業都市」の特殊性を反映して，購買会と生活協同組合の発展が顕著であるため，他の都市とは異なる購買慣習を生ぜしめているものといわねばならぬ。

### Ⅲ 生活協同組合と購買会

#### 1 序

室蘭市において，労働者の組織する「生活協同組合」と会社の直営する「購買会」の両者から購入される商品が多量にのぼっていることは，上述のとおりであるが，これらは少なからず一般の小売商店と競争関係にたつものもあつてときにいわゆる「商業活動の調整」を要する問題を発生させている。現に市内の化粧品小売業者から化粧品の廉価販売をおこなわぬように——との申入れがある位である。しかし，室蘭市において，生活協同組合や購買会が古くから発達をしてき，今日，広く利用されているのには，それ相当の理由があることは

いうまでもない。いま、それらの主なものをあげてみよう。まず日本製鋼所や富士製鉄株式会社では多数の労働者を雇用しているが、そこでは、おのずから労働者意識が旺盛となつて、労働組合運動がさかんになると同時に、生活安定のため自からの手で生活協同組合をつくることもあれば、また会社に対し同様の施設を求めるものである。そして、会社は巨大資本の事業体であるため、容易にそれに応じて、福利厚生施設の完備を期していることが、大規模な購買会の設置をみるにいたる1因となつている。また、このような福利厚生施設が先行したため、社宅街に小売商店の進出する余地の少なかつたことや、ひいては商店経営の近代化がおくれていることなども、反対に、小売商店や卸売商業の発達をおくらせた大きな理由となつている。なお、地理的に商店街の発達する地域に恵まれず、それが市内の1部にかぎられていることも、生活協同組合や購買会の利用を増加させる1つの理由としてあげられる。したがつて、生活協同組合や購買会の利用高が増加したため、小売商の売行が減退することがあつても、直ちに両者の活動を抑止せんとする方策をとるのは妥当でない。とくに後述のように、小売商における経営の合理化がおくれて物価高の現象を生じているため、生活協同組合や購買会の利用が増加していることを思えば、一層、それが強く感ぜられるのである。それでは、これら両者の主なものの組織状況や事業概況はどのようなものであるか。最近の資料によつて述べてみよう。

## 2 生活協同組合について

### (1) 日本製鋼所生活協同組合

この組合は、大正2年、「日本製鋼所購買組合」として創立されたもので、歴史は古く、規模も大きい。創立以来、きわめて順調な発展をとげてきたが、かの第2次世界大戦の間、経済統制の強化によつて取扱物資の入手が困難となつたため、昭和18年8月、解散して、組合業務の一切を会社に移管した。終戦後、再び協同組合としての組織をとることとなり、昭和21年6月、産業組合法によつて「日本製鋼所購買利用組合」として再発足し、さらに、昭和23年10月「消費生活協同組合法」の施行により、同法に準拠した協同組合に組織替えし同24年2月、名称を「日本製鋼所生活協同組合」と変えて、今日にいたつている。

次に、この組合の昭和32年8月1日現在における組織の状態をみると下記のとおりである。

組合員数 2,481 名，出資金 967 万円，1 口の出資金額 50 円，1 人平均出資金 3,900 円，理事 17 名，監事 3 名，総代 100 名（各職場を16選挙区に分けて選出）。

任意機関——購買品検査委員理事 3 名，総代 4 名，監査委員総代 25 名，主婦協力委員主婦 28 名。

従業員数 166 名（内訳，役付者18名，職員121名，作業員16名，また性別では男子71名，女子95名）

さらに、事業についてみよう。事業として、「物資供給事業」が主要なものであることはいうまでもないが、このため、雑貨店舗 4 カ所，出張所 2 カ所，魚菜市場 9 カ所を設け，特約店として靴 4 店，時計 4 店，ラジオ 4 店，カメラ 1 店，自転車 2 店，ミシン 1 店，電気器具 1 店——計 17 店がある。昭和 31 年度の供給高の総額は 37,817 万円で，取扱品目別にみた内訳は下記のとおりである。すなわち，米穀 11,083 万円，和洋酒 1,937 万円，調味料食料品罐詰 3,725 万円，乾物 794 万円，菓子 1,853 万円，化粧品小間物 943 万円，燃料 850 万円，家庭用品 2,403 万円，衣料 3,625 万円，紙文房具 530 万円，たばこ 940 万円，生鮮食料品 6,567 万円，その他 2,567 万円——計 37,817 万円となつている。

商品の仕入先を簡単に述べると，衣料品は小樽，東京，大阪，食料品は地元札幌，小樽，家庭用品は地元，新潟——のそれぞれの問屋またはメーカーであり，電気器具は東芝製品と三菱電機のものが入っている。野菜は主に旭川方面より仕入れ，鮮魚も移入もの（貨車による）が多くて全取扱高の 60% を占め，残り 40% は近海ものが取扱われている。なお，組合員への販売にあつては，掛売が多くて 70% を占め，現金売は 30% となつている。掛売代金は会社の給料から差引く方法がとられている。月賦販売も実施し，ミシン，電気洗濯機，既製服などにつき，最長 10 カ月を認めている。

次に「利用事業」としては，浴場 2 カ所，理髪所 2 カ所があり，また食堂を 2 カ所（会社構内事務所と現場）設けて経営している。昭和 31 年度におけるこれら施設の利用者数は，浴場 234,050 人（内訳，大人 149,200 人，小人 84,850 人）理髪所 10,613 人（内訳，大人 8,210 人，小人 2,403 人）となつており，食堂の利用者は 1 日

約 700 人である。

さらに「教育事業」としては、従業員や組合員、とくに主婦に対して講習会や懇談会などをおこない、機関誌発行のような教育宣伝活動もおこなっている。

以上によつて知られるとおおり、この生活協同組合は、組合員数の多いこと、出資金の 1 人当り平均が 3,900 円にもものぼっていること、供給事業のほか浴場理髪所、食堂などの利用事業を堅実におこなっていること、供給事業の店舗数が多く組合員の便宜をはかっていること（無料配達制も実施）、1 カ年の売上がまことに大きいこと——などは、理事長などの経営者が優秀であることとあわせて、業績甚だよく、北海道においてはもとより、全国的にも、その規模、経営内容においてすぐれたものといえるのである。

## (2) 室蘭中央生活協同組合

これは去る昭和 29 年のいわゆる「日鋼争議」に際し、労働組合が 2 つに分裂したとき、前記、日本製鋼所生活協同組合から分離して別個につくられ、同 30 年 5 月 14 日に認可をうけている。日本製鋼所のいわゆる第一組合に属する人々を主に組合員としているが、地域組合であるから、それ以外の人々も加入している。昭和 32 年 3 月 31 日現在の組合員は 2,095 名、出資金は 2,715,900 円で規模は大きい。

供給事業をみると、主食配給店舗 2 カ所、雑貨店舗 5 カ所をもち、昭和 31 年度の全供給高は 156,242,111 円である。また利用事業としては理髪所を 3 カ所設けているが、料金は大人調髪 60 円、小人丸刈 30 円をとっている。

## (3) 港南生活協同組合

この組合は、市内祝津町方面に所在する函館ドック株式会社室蘭製作所、檜崎造船建設株式会社（築地町）、山陽木材防腐株式会社室蘭工場（小橋内町）、開発局修築事務所の各労働組合に所属する人々によつて、昭和 31 年 5 月に設立されたものである。この地区は生活必需品を販売する商店が少く、値段も概して高かつたため、日本製鋼所の生活協同組合のようなものをつくつて生活安定をはかろうというのが、その設立の動機となつている。現在、組合員は 670 名であるが、地域組合であるので一般の人々が 90 名入っている。出資金の総額は 68 万円、支店を 1 カ所設けている。一般の食料品雑貨や衣料品などを取扱つて

いるが、附近に商店が少いため、よく利用せられ、設立後まだ日は浅いけれども、順調な経営をつづけている。

以上のほか、室蘭地区労働組合会議の指導で設けられた「室蘭地区生活協同組合」(昭和31年6月認可)が市内の商店街に店舗を開いている。一般の商店に伍し平然と経営しているのは、他の都市では、一寸、見られぬ事態かもしれない。

### 3 購買会について

室蘭市において「購買会」といえば、すぐに富士製鉄株式会社のそれを指すほど著名なものとなつているが、これは規模、取扱高、利用者などが甚だ大きいことによるものといわねばならぬ。よつて、以下、その沿革、事業などについて述べることにする。

#### (1) 沿革

この「購買会」の歴史は、前記、日本製鋼所の生活協同組合と同様、相当に古い。すなわち、既述のとおり、富士製鉄株式会社の最初の前身が生れたのは北海道炭礦汽船株式会社の「輪西工事所」の設置にみるのであるが、これが50トン高炉の建設工事に着手した当時、現場で家庭用の米を配給したことがあつて、この業務がいまの購買会の原初的形態とみられている。後、大正2年頃から従業員の増加にともない、端之江社宅入口の建物内で、1カ月に3回、米、味噌、醤油、砂糖、チリ紙、石鹼などの生活必需品を、倉庫係員などの手で販売したが、後には場所を現在の輪西配給所の位置に移し、初めて専任の勤務者6名を配置、取扱品の数も増加していつたのである。大正8年12月、会社が日本製鋼所と合併したため、消費組合の形態に変えられ、「株式会社日本製鋼所物品購買販売組合輪西出張所」と称したが(当時の勤務者12名)、昭和6年10月、会社が日本製鋼所から分離して輪西製鉄株式会社となつたので、会社直営の配給所になつたのである。そして、同9年2月、八幡製鉄所と民間4社の合同によつて日本製鉄株式会社が創立されると、改組して引続き営業し、名称を「購買会」と言い、米穀、食料品、衣料品、家庭用品、燃料など、一般の必需品を広く取扱うようになった。その後、社宅の増加にともない「配給所」も増設していつたが、戦時中は中島町の配給所が艦砲射撃をうけ、倉庫を撃破されて従業員13名が即死するという惨事もあつた。

戦後も、すべて直営の配給所として経営され、予納金制度の開始、運転資金の増加、経営の合理化につとめた。昭和25年、過度経済力集中排除法により、会社が現在の富士製鉄株式会社に変つた後も引続き経営してきたが、参考までに当時の売上高をみると、年間255,225,564円22銭、また勤務者は配給所に158人、日鉄食品株式会社に46人であつた。続いて同31年6月に予納金制度を廃止し、資金を3,600万円としたが、最近は会社業績の向上にともない、配給所の売上高も、年々、上昇し、取扱品目も多種にわたり、同様に取扱高も増加の一途をたどり、昭和31年度の売上高は795,520,016円の巨額にのぼり、勤務者も昭和32年3月現在で140人をかぞえている。

## (2) 事業

まず配給事業から概観していこう。その取扱品が日常の必需品全部にわたつているのはいうまでもなく、直営で取扱つていないものは時計、玩具、スポーツ用品、楽器、雑誌などである。ただし、時計は市内に特約店を指定しているし、雑誌も1部の配給所では口銭をとることなく、配達までサービスしているところがある。

販売方法は現金売を原則としているが、通帳制もとり入れて、その集金事務を同社内に設けられた「同潤社」と称する別働機関にあたらしめている。この機関は購買会の集金、配達の仕事をおこなうほか、会社従業員の家庭への燃料運搬、煙筒掃除、便利作業、畑起しなどの業務をおこなうもので、日々、100人位のものがそれらの仕事にあたつている。会社はこの同潤社に対し、1,000万円の支出をしているが、会社従業員も1家庭当たり、月70円の負担をすることとなつている。

次に利用事業をみると、浴場の経営と理髪所の設置がある。現在、浴場は17カ所設けているが、すべて無料である。理髪所は14カ所設けてあるが、料金大人45円、小人30円で利用されている。クリーニングについては特約店制度がとられている。

## (3) 商品の仕入と配給価格

購買会が多数の従業員によつて利用され、その生活安定に資し得るのは、結局、取扱商品の仕入が合理的におこなわれて品種が多く、且つ、売価も低廉であ

るということによつている。それでは、この購買会ではどの地区でどのような商品を仕入れているか、またその際の仕入単価はどれ位で、それをどれ位の値段で販売しているか、これらについて述べてみよう。

商品の仕入先——

多種類にわたる商品を多量に取扱つているため、その仕入先を業者名で示せば甚だ多くなるので、ここには仕入先の地区別における業者数と商品名をかかげるに止める。

a 室蘭地区

仕入先 52業者

仕入品 主食、麦、砂糖、油、酒、洋酒、乾物、罐詰、調味料、菓子、パン、茶、乳製品、塩、たばこ、麵類、履物、薪、竹竿、石鹼、歯磨、化粧品、荒物、金物、薬品、小間物、人形、陶器、文房具、雑誌、電気器具、アイロン、自転車、靴、運動具、フィルム

b 札幌地区

仕入先 18業者

仕入品 醤油、味噌、罐詰、食用油、酒、茶、酢の素、菓子、飴菓子、洋品類、かばん、夜具綿、化粧品、履物、荒物雑貨、背広服、既製服

c 小樽地区

仕入先 14業者

仕入品 和装織物、綿布、毛布、靴下等、毛糸等、既製服、服地等、菓子家具、荒物、金物、薬品

d 函館地区

仕入先 4業者

仕入品 夜具綿、茶、金物、履物

e 苫小牧地区

仕入先 2業者

仕入品 菓子、生菓子、パン

f 北見地区

仕入先 1業者

仕入品 コンロ

g 伊達地区

仕入先 1業者

仕入品 飴

h 道 外

東京——タオル，下着，綿反物，洋傘，帽子，菓子

青森——味噌

大阪——帽子

静岡——茶

新潟——化繊服地

商品の配給価格——

取扱品のうち，主なものの仕入単価と販売単価を，昭和31年11月現在で示すと下記のとおりである。マージンは，大体，5%位ということであるから，従業員への販売単価は一般の市価にくらべてかなり低くなっている。

## a 食 料 品

品名	区分	名柄、規格、量目	単位	仕入単価	販売単価
麦	粉	2 K詰，白星	袋	113	120
乾	麵	鶴 扇	把	18	19
味	噌	上 物	貫	255	270
"	"	並 物	"	231	240
醬	油	奇	本	109	115
"	"	奇	"	109	115
胡	麻 油	5 合入	個	246	270
"	"	1 升入	"	408	450
サ ラ ダ	油	瓶 詰	"	108	120
砂	糖	大 白	斤	74.40	80
"	"	中 白	"	71.40	75
"	"	双 目	"	75.40	85
角	砂 糖		"	92	110

ウイスキー	サントリー 720cc	本	1,085	1,150
ブドウ酒	赤玉 550cc	〃	180	200
〃	白玉 〃	〃	180	200
〃	蜂	〃	180	200
〃	大黒 1升入	〃	360	380
養命酒	500cc	〃	300	320
ウイスキー	ニツカポケット	〃	107	115
〃	〃 角	〃	290	310
〃	トリス 丸	〃	292 <sub>50</sub>	320
〃	デルクス(コツプ詰)	〃	430	450
〃	オーシャン	〃	276 <sub>50</sub>	300
キビダンゴ		個	7 <sub>50</sub>	8
キヤラメル	小	〃	8 <sub>30</sub>	9
〃	大	〃	16 <sub>50</sub>	17
煉乳	雪印 397g	〃	83	88
〃	〃 豆罐	〃	32	40
スキムミルク	〃	〃	103	110
ベータミルク	〃 450g	〃	260	270
ソフトカードム	明治 〃	〃	260	275
バター	雪印 ½カートン	〃	156	165
〃	明治 〃	〃	145	150
〃	〃 ½罐入	〃	165	170
マーガリン	½カートン	〃	65	70
ネオマーガリン	〃 〃	〃	85	90
チーズ	〃 〃	〃	139	145
6方ションチーズ		〃	139	145
さんま 罐	6号	〃	24	25
鯨 須の 子	〃	〃	45	50
鮭 筍	平2号	〃	56	60
密 柑	5号 全糖	〃	43	45
洋 梨	4号	〃	65	70

白		桃	4号	個	62	65
	〃		2号 ㊦	〃	130	140
枇		杷	4号	〃	72	75
	〃		2号	〃	130	140
桜		桃	4号	〃	75	80
苺	デ	ム	5号 明治	〃	76	80
パ	イ	ン	3号	〃	177	190
	〃		平2号	〃	83	90
牛	肉	㊦ 煮		〃	83	90
コ	ン	ビー	明 治	〃	120	130
福	神	漬	カゴメ	〃	45	50
ソ	ー	ス	2合 三ツ矢 カゴメ	〃	40	42
	〃		〃 ブルドック	〃	50	53
	〃		合	〃	53	55
	〃		4合 チキン㊦	〃	85	90
ト	ン	カツ	2合 カゴメ	〃	48	50
ソ	ー	ス	2合	本	33	38
〓		酢	5合	〃	58	60
	〃			〃		
キュー	ピー	マヨ	小	〃	35 <sup>50</sup>	38
	〃	ネーズ	中	〃	66 <sup>50</sup>	70
	〃		大	〃	94 <sup>50</sup>	105
カ	ゴ	メ	1合	〃	53	57
	〃	ケ	2合	〃	83	90
カ	ル	ピ	2合	〃	150	155
白	玉	粉	100匁 だるま	〃	62	65
片	栗	粉	〃	〃	23 <sup>50</sup>	30
S	B	胡		個	32	35
S	B	カ		〃	42	45
味	の	素	25g 袋入	〃	48 <sup>30</sup>	50
	〃		30g 瓶	〃	70 <sup>25</sup>	75
	〃		50g 罐	〃	114	125

味の素	100g 罐	個	215 <sup>50</sup>	230
明治紅茶	白罐 ¼	〃	195	205
〃	青罐 ¼	〃	155	165
リプトン	¼	〃	510	520
M J B コーヒー	I P	〃	830	850
ハーシーココア	½	〃	380	400
バンホーテンココア	¼	〃	420	450

b 衣 料 品

品名	区分	名柄、規格、量目	単位	仕入単価	販売単価	
				円	円	
AK# 3,500	デシン	29×25	ヤール	135	140	
川紡	ナイロンウール	#5000 W巾50	〃	580	580	
東レ	〃	# 530 29×30	〃	190	200	
毛	糸	ニチポー	封 度	1,260	1,440	
〃	〃	ダイヤ	〃	1,260	1,440	
〃	〃	川紡ナイロンリリー	〃	1,050	1,140	
〃	〃	ニチポー	〃	1,360	1,480	
〃	〃	クロセット	〃	1,360	1,480	
キ	ヤ	コ	三桃	ヤール	80	90
〃	〃	〃	#10,000 36×42	〃	83	90
〃	〃	〃	# 6,000 42×47	〃		
学	童	服	東レ#5,600 2号	着	1,200	1,250
〃	〃	〃	3号	〃	1,260	1,300
〃	〃	〃	4号	〃	1,320	1,400
〃	〃	〃	5号	〃	1,380	1,450
〃	〃	〃	6号	〃	1,430	1,500
別	珍	所恵比須	2×綾	ヤール	350	400
〃	〃	# 8,000	8×	〃	340	360
〃	〃	100A		〃		
生	天	笠	日紡ナスビ44×46.5	〃	74	80

## c 化粧品

品名	区分	名柄、規格、量目	単位	仕入単価	販売単価
香	油	大島椿 大	個	打 1,540	145
"	"	八重椿	"	" 1,150	100
乳	液	ジュジュ	"	" 800	75
化	粧	水	"	" 740	70
白	粉	モナ 1号	"	" 1,540	140
歯	磨	ライオン 瓶入	"	" 690	65
"	"	サンスター	"	" 880	80
石	鹼	牛乳	"	" 282	25
"	"	花王	"	" 240	21
"	"	資生堂 花椿大	"	2,350	25
"	"	40 エマール	"	37	40
"	"	罐入ワンダフル3.8K	"	650	690
ク	リ	ム	"	打 820	75
"	"	ウテナバニシング	"	" 1,190	110
"	"	マダムジュジュ	"	" 1,650	150
ポ	マ	ード	"	" 1,540	145
"	"	Aワン (罐入)	"	" 810	75
"	"	柳屋	"	" 810	75
香	油	大島椿 小	"	" 1,150	110

## d その他

品名	区分	名柄、規格、量目	単位	仕入単価	販売単価
脱	脂	綿	個	27.50	29
替	刃	フェザー 両刃	枚	6.50	7
靴	墨	コロンブス	個	打 400	35
鉛	筆	三菱HB	本	" 500	4
地	下	足	袋	250	270
セ	イ	ロ	個	455	480

セ	イ	ロ	北星 28cm	個	535	560
	〃		〃 30cm	〃	625	660
ゴ		ザ	別上	枚	175	180
電		球	マツダ 2W	個	18	20
	〃		〃 10〃	〃	42	43
	〃		〃 20〃	〃	42	43
	〃		〃 40〃	〃	42	43
	〃		〃 60〃	〃	42	43
	〃		〃 100〃	〃	42	43
障	子	紙	半紙判	本	72	75
	〃		〃 糸入	〃	50	55
マ	ツ	チ	家庭用 小型	個	21	22
	〃		並 (10個入)	〃	16	17
ク	レ	ン	エドナ	〃	17 <sup>50</sup>	20

#### IV 室蘭市の物価高について

##### 1 物価高の實情

北海道のどの都市、どの地方にいつても物価が高いといわれるように、室蘭市でも一般に物価が高いという声がかかる。それは、本州他府県の都市にくらべてはもちろん、本道の札幌、函館、小樽などにくらべても、多くの商品の価格が高いという意味のことであるが、しかし、前述の日本製鋼所生活協同組合や富士製鉄株式会社購買会などで商品を購入する場合は、いわゆる内地並みのことも少くないから、結局、それは、小売商店の販売価格が割高であるということになつてくる。筆者が昭和32年8月下旬、実地調査の際、二、三見聞したことによつてもそれらのことがよく知られる。たとえば、室蘭港には、毎月250隻位の船舶が入港しているが、乗組船員の多くは、上陸してもほとんど、飲食をする程度の支出をおこない、身回品、化粧品、文化用品など、本来、必要と思われるものを買求めるものは少いということである。理由は、本州の入港地である横浜や神戸などの商店街の店舗にくらべて、室蘭市の商店の売価は

概して高く、サービスもよろしからず、店主、店員の応対ぶりの粗野なことなどが、船員の買物を避けしめているにある。これによつて、室蘭市の物価が本州都市の物価にくらべて割高であることの1班が知られる。また、物価高を痛切に感ずる家庭の主婦からは、それを引下げるよう、いわゆる物価引下げ運動をおこなつたこともあるが、たしかに台所用品の鮮魚、野菜をみても、種類は少く、鮮度は落ち、しかも値段の高いものも多く、肉類も安くない。市内の商店街に面した或る小売市場の売店で筆者が実見したところでは、豆腐1丁35円、納豆1つ15円、しらたき1つ35円という売価であつたが、これは札幌、小樽にくらべて、それぞれ5円、3円、5円位の割高となつている。さらにこの市場売店での細かい話をすれば「がんもどき」を1個6円で販売していたが、これなど札幌の小売市場では、形のもつと大きなものを1個4円で販売している一とは売店従業員の話であつた。この1例だけをみても、道内他都市にくらべて物価の高いことが察知される。なお、室蘭地区の労働組合も労働者生活の安定のため、共同でしばしば実情を調査し、物価の引下げにつとめてきている。

以上のように、室蘭市では、一応、物価の高いことが察知されるのであるがこれを、既述、消費調査の際、一緒におこなつた物価調査の結果についてみると第5表のとおりである。

(注) 第5表における、北海道立室蘭栄高等学校および同清水丘高等学校の生徒の記入内容は次のとおりである。

	(栄高等学校)	(清水丘高等学校)	(合計)
記入のあるもの	150	263	413
内訳—			
「高い」と記入	143	255	398
「高くない」と記入	7	8	15
記入のないもの	22	38	60

第5表 物 価 高 の 割 合

割合	記 入 数		合 計
	栄 高 等 学 校	清 水 丘 高 等 学 校	
0.5 %	3	1	4
1	2	1	3
1.5	2		2

2	8	8	16
3		2	2
4		1	1
5	9	11	20
7		2	2
8	1	2	3
10	21	26	47
15	2	9	11
17	1		1
20	9	25	34
25		1	1
30	1	11	12
40	1	1	2
50以上	1	4	5
割合の記入のないもの	82	150	232
合計	143	255	398

これによつてみると、「高い」と記入したもの（398）は圧倒的に多く、「高くない」と記入したもの（15）は僅少で、「無記入」のもの（60）があるけれども、一般に物価の高いことはよく知られる。また、どの程度に高いのか、その割合についてみると、5%から10%位までのものが多く、これを越えて20%位というものも少なからずみられる。要するに、10%前後高いというのが実情のようである。

ところで、このような物価の高いことは、市民の購買力をその安い他都市へ流出させるのが経済原則の示すところであり、それゆえ、もし近辺にそのような都市があれば、当然、そのような事象がおこつて、市内の商店の経営難を生ぜしめるはずである。しかし、幸か不幸か、近辺にそのような都市がないため、物価高は、依然、そのままの状態ですつき、一向に是正されないのである。このことは、第6表「札幌市への購買動機」の調査にあらわれた結果によつて如実に知られる。すなわち、上述のような室蘭市の物価高にかんがみ、もし札

第6表 札幌市への購買動機

購入の理由	記入別		
	栄高等学校	清水丘高等学校	合計
値段が安い	81	132	213
品物が豊富である	91	152	243
品質がよい	12	13	25
信用できる	13	11	24
スタイルがよい	10	11	21
サービスがよい	11	13	24
無記入	57	107	164

幌市との間が距離的にもう少し近く、容易に往復できるならば、購買動機として「値段が安い」というのが第1位にあげられるに相違ないのであるが、事實はこれが第2位にあつて「品物が豊富である」というのが第1位の購買動機となつているのは、購入先が主に百貨店や専門店であり、購入商品も買回品が多いことによるとはいえ、また札幌市までの汽車賃（3等片道400円）と往復に要する時間（片道、普通列車で約3時間半）を考慮にいれるとき、相当の高級品や高価品を買求めるのでなければ引合わぬ結果となり、このような順位になつたものと察せられる。したがつて、今後、札幌市との交通が便利となり、時間の短縮をみるならば、「値段が安い」ことや「品物が豊富である」ことを理由に、購買力は物価高の地元を避けて札幌市へ向うものと考えられるのである。

さらに、価格の高い商品には、いつたい、どのようなものがあるか。その実情は第7表にみられるとおりである。すなわち、衣類、呉服・反物、服地（生地）というような繊維製品の値段が高いようである。これは地元有力な問屋（卸売商）の甚だ少いことに一因があるといわねばならぬ。その事實は、既述富士製鉄株式会社の購買会が、取扱商品の仕入はなるべく地元の業者からおこなうという方針をとつているのに、繊維品については、多く小樽市の卸売商から仕入れていることによつて、よく諒知される。繊維製品に次いで高いものに食料品、野菜、魚類、家具類、果物、肉類——などがあげられている。これら

第7表 価格の高い商品

品 目	記 入 数			品 目	記 入 数		
	栄高校	清水高 丘校	合計		栄高校	清水高 丘校	合計
衣 類	60	96	156	砂 糖		1	1
呉 服・反 物	23	23	46	野 菜	9	18	27
服 地(生地)	12	21	33	魚 類	7	17	24
背 広 服		1	1	肉 類	2	11	13
婦 人 服		2	2	果 物	3	14	17
学 生 服		1	1	菓 子 類		5	5
下 着 類	1	3	4	文 房 具	1	2	3
洋 品	2	1	3	書 籍		2	2
オ ー バ ー	1		1	ス ポ ー ツ 用 品		4	4
バ ー バ リ コ ー ト		1	1	玩 具		1	1
ス プ リ ン グ コ ー ト	1		1	ガ ラ ス		1	1
皮 製 品	2	6	8	燃 料	1		1
履 物 類	5	4	9	化 学 製 品	2		2
家 具 類	7	16	23	機 械 類	1		1
時 計		3	3	ス ク ー タ ー	1		1
ラ ジ オ 等 電 気 器 具	3	1	4	オ ー ト バ イ	1		1
金 物		1	1	自 動 車	1		1
小 間 物		1	1	一 般 商 品	2	3	5
雑 貨	2	3	5	ク リ ー ニ ン グ 代	1	5	6
食 料 品	24	29	53	仕 立 代		1	1
米	1	1	2	不 明	2	2	4
パ ン	2	3	5	無 記 入	64	111	175

は、繊維製品と同様、日常生活に密接な関連をもつものばかりであるから、記入者は値段の高いことを痛感するまま、記入したのに相違ない。魚類の高いのは近海が凶漁のため、大部分、他地方のものを移入していることによる。このことは、いくら他地方で豊漁がみられても（例、釧路沖のさんま）、輸送の関係

上、一定量のものしか移入されないため、値段は下らず、運賃などの諸経費も加算せられて市民の購入価格を高くしているのである。また野菜も市内や周辺地域で多く産出されず、伊達町方面のものや遠く旭川地方から移入されているため、魚類の場合と同様、その売価は高くなっている。さらに、家具類、果物、肉類なども、すべて移入品であるため、他面における商店経営の合理化不足と相俟つて、一般に売価を高めている実情である。

## 2 物価高の原因と対策

最後に、室蘭市における物価高の原因とその対策について考えてみよう。およそ1地方、1都市における物価が他地方、他都市のそれにくらべて高低ある場合、そこには自然的、社会的、経済的ないろいろの原因があつて、同じく高物価といわれる北海道内の諸都市の間にあつても、その原因に異なるものがみられ、決して一様に論断のできるものではない。いま、室蘭市の物価高の原因の主なものをあげてみよう。

### (1) 小売商経営の合理化が足りないこと

室蘭市は古くから工業都市として開け、貿易港としても発展してきたため、自然、商店は工場労働者、港湾労働者或は内外国の船員を顧客とするようになり、これらの人々の購買慣習が、従来、大ざつぱなことが多かつたため、商店側にあつても、長らくの間、経営合理化の必要に気付かず、商品の陳列方法、店舗の構造、照明、接客態度などの諸点において、ルーズになりがちであつた。またこれを指導する機関の側にあつても適切な方策をもつてそれらの近代化をはかる指導をせずにごしてきたため、一層、そのような傾向を助長しているようである。このことは、同市の商店街を道内他都市の商店街と比較して一見するとき、上記の諸点でいかに劣っているものが多いかによつて、よく知られる。ところで、このような商店の経営合理化の不足は、マージンを多くとつて売価を高める結果となり、それを軽減して商品の売行増加をはかる努力を忘れさせ、いわば1つの惰性として今日に及んでいるような現状である。

### (2) 卸売商業の発達がおくれていること

すでに述べたとおり、室蘭市の代表的な2大工場では、それぞれ生活協同組合や購買会が古くから設けられてきたため、本来、存在すべきはずの小売店舗

を多数排除しており、ひいては小売商を相手とする卸売商の存在を困難ならしめる結果となつている。もしも上記の2大配給機関に代つて多数の小売商店が存在していたとするならば、多少とも、各般の業種にわたつて卸売商は生成されたに相違ないのであるが、生活協同組合も購買会も多種多量の商品を仕入れているとはいえ、当初から札幌、小樽などの卸売商やメーカーから購入してきたため、地元では一向に卸売商は育たず、たとえ生れても十分な発達は見難い状況にある。かの市民が高価格を訴える繊維製品にしても、ほとんど他都市の卸売商に依存しているため、地元ではその発達は困難となつている。ところで、このように卸売商が未発達の状態にあることは、おのずから小売商をして他地方、他都市の卸売商から仕入させるにいたることはいうまでもなく、当然有利な仕入法がとり難く、運賃その他の諸掛も余分に負担することとなり、ひいては価格を高からしめる結果となつているのである。

### (3) 物価引下げの方策が講ぜられていないこと

およそ都市の物価があまりにも高く、ために多くの市民が生活上の不利をうけている場合、行政当局や関係団体がその任務として、その是正をはかる方策をたて、対処するのが当然といえる。ところが、室蘭市では、市役所も商工会議所も、物価高であることは十分に認めておりながら、その引下げに必要な方策はほとんどたてず、また、前述のとおり、業者に対する経営合理化の指導なども不十分な状況であつた。もちろん、一概に物価高といつても、日本製鋼所や富士製鉄株式会社の従業員にとつては、生活協同組合や購買会でかなり割安な生活必需品の購入をしているため、他の職場の市民ほど物価高による影響を身に感ぜず、ただ商店街などで買物をする際、気付く程度のものであるから上記のような物価引下げについてはあまり積極性を示さないことも、方策の樹立をおくらせる1因となつている。もしも、これら両工場の従業員が現在にみるような厚生施設が備わらず、そのために必需品を割高で購入しているとするならば、或は世論を形成して、市政上、是正に必要な方策がたてられたかもしれないのである。すでに物価高に悩める1部の会社、工場の従業員が、それによる不利を少しでも避けんため、自衛的な地域生活協同組合をつくつたことは前に述べたとおりであるが、それらが順調な発展をつづけていることや、組合

附近の商店の売価が低下する傾向にあることは、いかに、従来、小売商店の売価が割高であつたかを証するに足るものといえよう。

#### (4) 生鮮食料品の生産に乏しいこと

室蘭市においては、とくに生鮮食料品の価格が高いが、これは他の道内都市でも、時々、見られる事象である。いうまでもなく鮮魚、肉類、鶏卵、野菜、果物などは、市民の日々の生活に不可欠のものであるから、これら商品の価格が多少とも割高であることは、心理的に物価高の事象を痛感させることが大きいし、事実、家計上の支出を増大させ、生活上にあたえる不利益は少くない。ここに、いずれの都市を問わず、生鮮食料品の価格を、極力、低下させるに必要な方策を講じて、市民生活の安定に資することが要請せられる。ところが、室蘭市にあつては、既述のとおり、これに必要な方策はたてられず、しかも地理的に地元生産が甚だ不利な状態にあるため、その大部分を道内の各地から移入するの余儀なきにいたり、これは商店側にとり、取引条件の不利、運賃その他諸掛の増加、目減りや汚損品の増加などによつて蒙る経費や損失を増大させ、道内他都市の商店が地元品を取扱っているのにくらべ、はるかに大きな不利益をうけているのである。また、たとえ地元品が生産されても、たとえば噴火湾（内浦湾）近海で多少の漁獲があつた場合、大部分は近くの登別温泉や洞爺湖などの観光地旅館や料理店へ、かなり割高で引取られることも、市民の台所へ地元産の魚類などが出回らぬ理由となつている。要するに、他地方の生鮮食料品に依存することが甚だ大きく、またこれら移入品を適切に受入れる卸売市場や小売市場などの施設の完備していないことが、産地の豊漁、豊作にかかわらず低廉な仕入や市民への販売ができず、反対に凶漁、凶作の場合には直ちに値上げの影響をうけるような結果となつているのである。

次に、それでは、「対策」としてどのようなことが考えられるか。それは上述の諸原因に対応する有効適切な方策を講じていくにあることはいうまでもないが、すでに室蘭市における物価高の原因には、相当、根深いものも存在するゆえ、一朝一夕で是正するのは容易なことではない。しかし、市民、とくにその大部分を占める労働者の生活安定を考えると、そのような状態をいつまでも続かしめることは、もとより許されない。したがつて、比較的容易なものか

ら、漸次、根本的なものの解決にすすむがよい。それを、上述の諸原因に対応してみると、一応、次のようにいうことができよう。すなわち、一面、商店経営の合理化や近代化をはかり、経費の節減、利潤の低下につとめて売価引下げに向うと同時に、他面、市や商工会議所においても商店に対する指導に力を注ぎ、物価高の是正対策を早急に考究、樹立することが望まれる。とくに生鮮食料品については、その価格が市民の日常生活に密接な関連をもつ重要性にかんがみ、できれば市費をもつて「公設小売市場」のごときを設けて、市が適当に指導、監督していくことが強くすすめられる。なお、食料品その他生活必需品の製造工業を市の内外に設けることも、ときに物価引下げに大きく役立つことのあるのはいうまでもないであろう。

#### 附 記 ——

- (1) この調査は、北海道商工業振興対策委員会の工業地帯調査委員会が昭和32年度の事業として実施せる「胆振地区工業地帯調査」において、筆者の担当せる「商品流通」分野の1部に属する。その全部は近く別に刊行される『胆振地区工業地帯調査報告書』に掲載することとなっている。
- (2) この調査のうち、「消費調査」を実施するにあたり、北海道立室蘭栄高等学校長樋口光映氏をはじめ教諭、生徒の方々、北海道立室蘭清水丘高等学校長二本木実氏をはじめ教諭、生徒の方々が調査表の記入その他に種々協力くださったことに対し、厚くお礼を申しあげる。また調査表の集計などの事務につき、小樽商科大学学生深村孝雄、上野克己、鹿熊銑二の3君の助力をうけたことに対し謝意を表する。
- (3) この調査のうち、日本製鋼所生活協同組合、富士製鉄株式会社購買会の諸事情については、両者の担当役職員の方々から種々教示をうけた。ここに記して厚くお礼を申しあげる次第である。